

# 峰の色溪の響も皆ながら

## 吾が釋迦牟尼の聲と姿と

道元禪師『傘松道詠集』より

最近CMなどでよく耳にする「マイナスイオン」という言葉があります。特に、心や身体の健康によい商品として「マイナスイオン」をうたい文句にする家電品が多く販売されているようです。イオンとは、電気を帯びた目に見えない原子や分子のことで、空気中にはプラスとマイナスのイオンが存在しています。

マイナスイオンは呼吸や皮膚から身体に取り入れられ、血液を通して体全体をめぐり、疲労の原因となる乳酸が生成されるのを抑えます。そのため新陳代謝が良くなり、細胞の機能を活性化させ、疲労の回復を促進する効果があるそうです。また、抵抗力も増加し、身体全体のバランスが良くなって、病気にかかりにくくなるともいわれています。森の中や滝のそばには、マイナスイオンが特に多く存在しています。私たちが大自然の中に身をおくと感じられる爽快感やリラククス感とは、このマイナスイオンの働きによるところが大きいようです。

これとは逆に、日常私たちが使用しているパソコン等のOA機器や、エアコン、テレビ、その他の電化製品の付近は空気が酸化され、その結果として身体に悪影響を与えるプラスイオンが多くなっているのだそうです。あわただしい都会生活では、谷川のせせらぎに耳をかたむけたり、自然にふれて心を落ち着けたりすることは困難です。そのため、少し皮肉な感じもしますが「マイナスイオン」つきの家電品が売れるようになったのでしょうか。

さて、福井県にある曹洞宗の大本山永平寺では、今年、永平寺を開かれた道元禪師さまの、七百五十回忌の大法要がおこなわれ、多くの檀信徒の方々が参拝されました。その永平寺の山門を入るとすぐ右手の築山に冒頭の『峰の色溪の響もみなながらわが釋迦牟尼の聲と姿と』の歌が刻まれた大きな石碑が建っています。この句は道元禪師さまが、「四季折々の山の移りかわりも、あたりにこだまする谷川の水音も、すべてそのまま、釋迦牟尼仏のお声を聞き、そのお姿を拝むようで、かたじけなく尊い気持ちが生じなければならない。この山のあらゆるものは、一木一草に至るまで、仏のいのちを宿し、その光にかがやいている。」という意味で詠まれた句です。また、お釋迦さまの教えに託して自然の大切さ、命の尊さ、ありがたさを歌われた句でもあります。

道元禪師さまがイオンの働きを知っていられたとは思えません。大自然の中での充実した修行生活から生まれたこの歌が、私たちの心を本当に癒すものを指し示しているように思えてなりません。

道元禪師は折にふれ、たくさん和歌を詠まれています。それらは『傘松道詠』という歌集にまとめられて親しまれてきました。

その歌には、人間の心情や自然がたくみに表現され、文学作品としても高い評価を受けてきました。

また一方では、仏の教えを端的に表し、真髓をズバリと指摘する力強さ、厳しさを句外に偲ばせております。

標題の句は、道元禪師がお釈迦様、祖師様方のお心を慕い仏道修行に励む中で、目に見え、耳に聞こえる自然の一つひとつの中に、仏のいのちをお感じになられた句です。自然を見つめ、原点を見直すためにも、現代にこそ味わい深い意味を持つ一句と言えましょう。

## 峰の色

溪の響も皆ながら

吾が釋迦牟尼の

聲と姿と

曹 洞 宗

神奈川県 第二宗務所

第五教区 布教部・出版部